

■ 保健環境研究センター12月だより

～インフルエンザのような症状が見られるRSウイルス感染症～

RSウイルス(Respiratory syncytial virus)は生後数週間から数ヶ月で感染すると、中耳炎を併発したり呼吸困難をきたして重症化することがあるため、特に乳児期において気を付けなくてはならない呼吸器系疾患ウイルスの一つです。流行期は概ね11月～3月ですが、この流行期はインフルエンザと類似しており、症状もよく似ています。当センターでも、インフルエンザ疑いの臨床検体やインフルエンザの集団感染が疑われた中学生の検体の中から、RSウイルスを検出した事例がありました。



ほぼ全ての子どもは2～3歳頃までにRSウイルスの初感染を済ませますが、一度かかっただけでは十分な免疫が出来ず、繰り返し感染しながら抗体を獲得することが知られています。感染予防にはうがい、手洗いを励行することが必要です。

(ウイルスチーム 大畑 記)